

射水市の自殺の現状と課題

1 自殺者数・自殺死亡率の年次推移

本市の自殺者数は各年20人前後です。自殺死亡率は、平成27年から増加傾向にあります。

一方、県・国はともに減少傾向にあります。令和2年度の本市の自殺死亡率は県・国よりも高くなっています。

(1) 自殺者数の推移

(人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
市	30	23	20	11	13	16	19	13	18	20
県	271	238	241	241	216	186	187	160	162	193
国	28,896	26,433	26,063	24,417	23,152	21,017	20,465	20,031	19,425	20,243

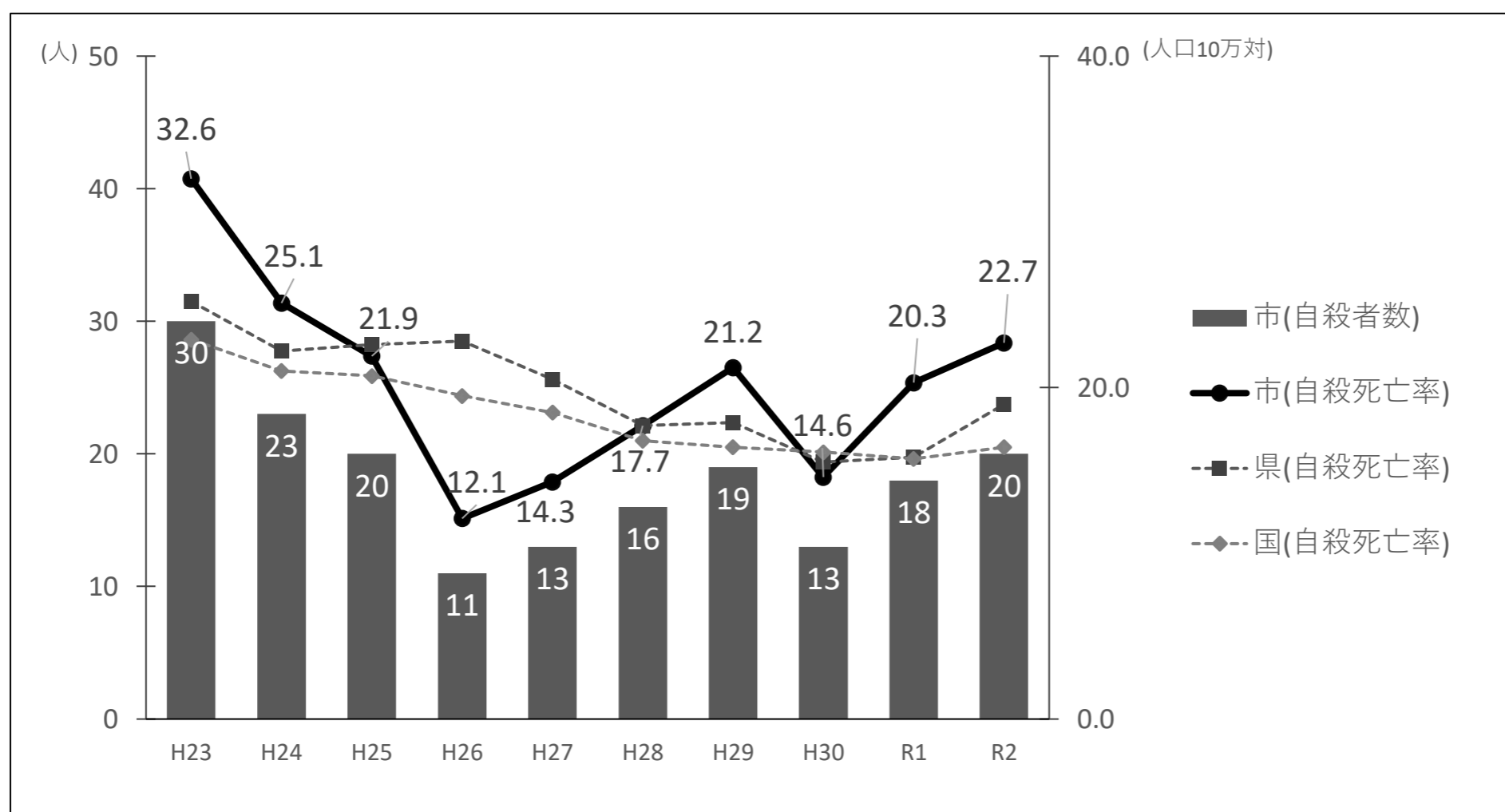
(厚生労働省「人口動態統計」)

(2) 自殺死亡率の推移 (人口10万対：人口10万人あたりの自殺者数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
市	32.6	25.1	21.9	12.1	14.3	17.7	21.2	14.6	20.3	22.7
県	25.2	22.2	22.6	22.8	20.5	17.7	17.9	15.5	15.8	19.0
国	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4	16.1	15.7	16.4

(厚生労働省「人口動態統計」)

自殺者数及び自殺死亡率の年次推移



2 射水市の自殺の現状

(1) 自殺死亡率（人口10万対）

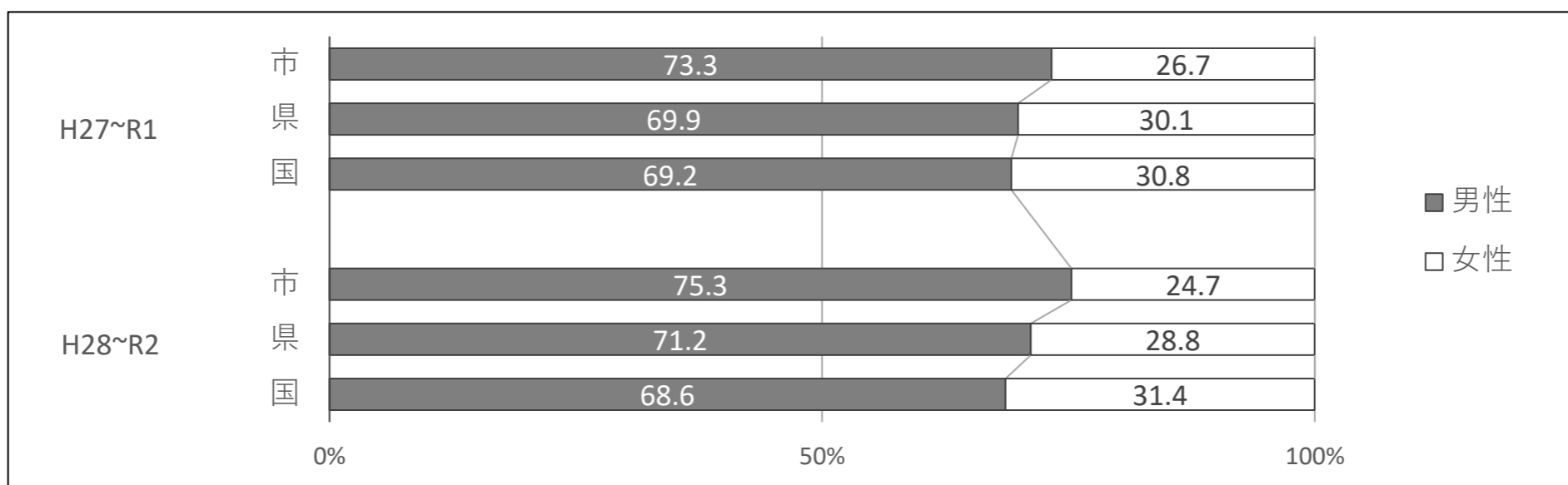
平成28年から令和2年までの本市の自殺死亡率の平均は、県・国より高くなっています。

	市	県	国
H24~H28	18.2	21.2	19.3
H25~H29	17.4	20.3	18.4
H26~H30	16.0	18.9	17.5
H27~R1	17.6	17.5	16.7
H28~R2	19.3	17.2	16.3

(厚生労働省「人口動態統計」)

(2) 性別割合

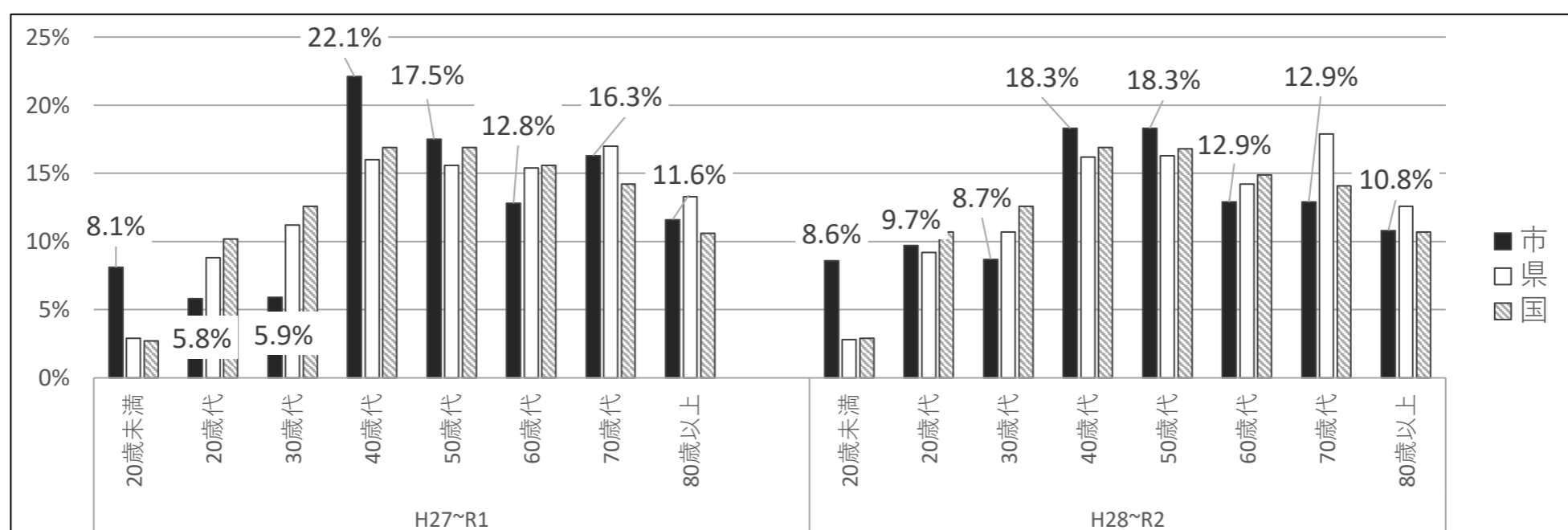
性別割合は、男性が7割を超えています。平成27年から令和1年までと平成28年から令和2年までを比較しても男女比の大きな変化はありません。県・国と比べると男性の割合が高くなっています。



(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020,2021)」)

(3) 年代別自殺者割合（全自殺者数に占める割合）

年代別自殺者割合では、平成27年から令和1年、平成28年から令和2年ともに40歳代、50歳代が高くなっています。また、20歳未満及び20歳代の割合が13.9%から18.3%に増えています。60歳以上が全体に占める割合は40.7%から36.6%に減少しました。

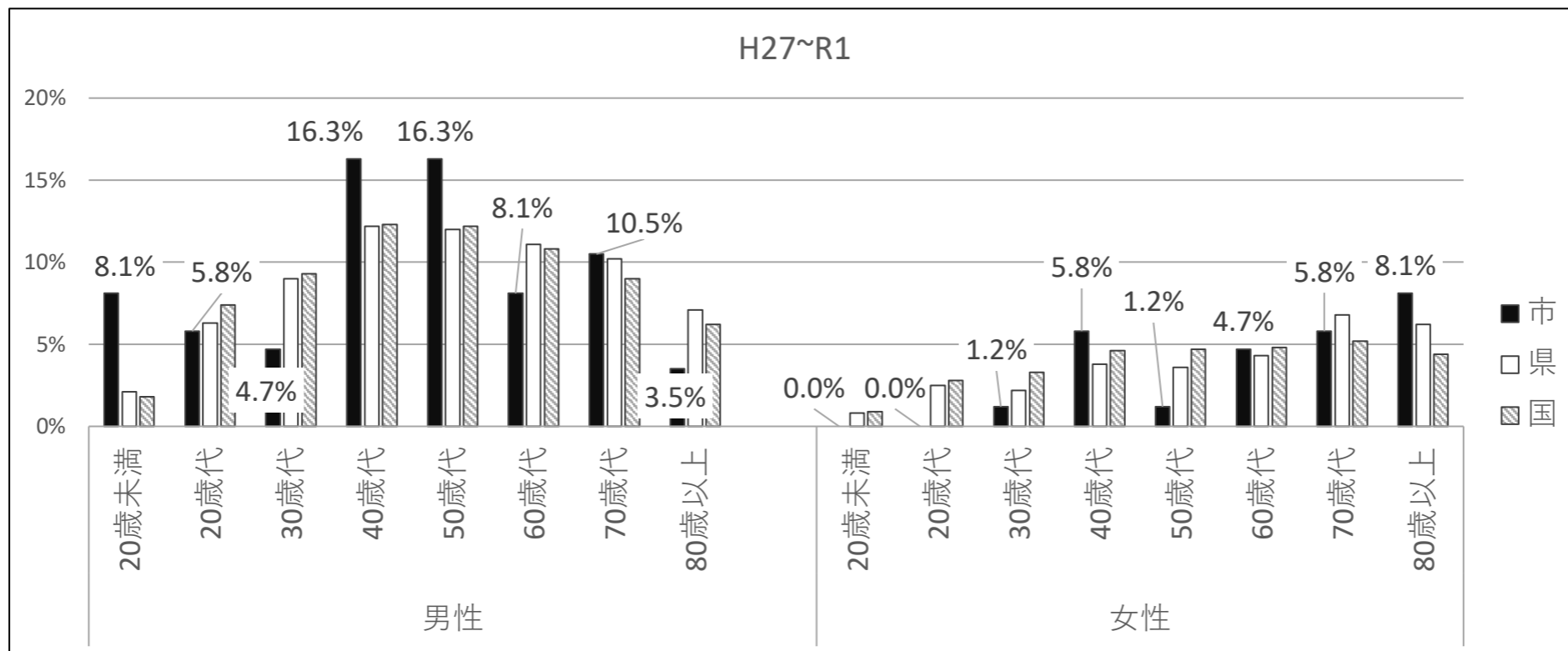


(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020,2021)」)

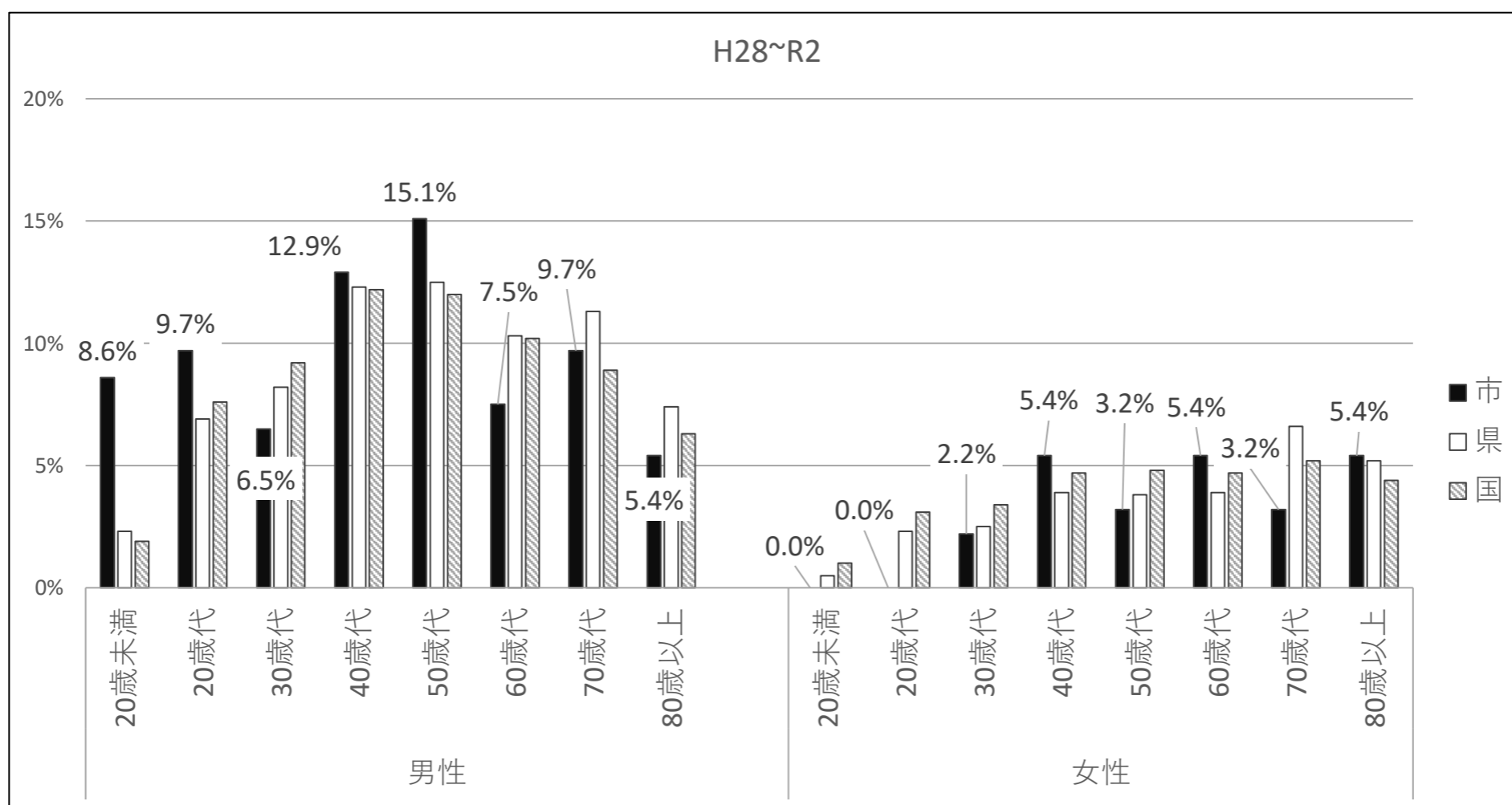
(4) 性・年代別

性・年代別の自殺者割合では、男性は平成27年から令和1年、平成28年から令和2年ともに、40歳代、50歳代が高くなっています。また平成28年から令和2年は20歳未満、20歳代の男性の自殺者割合が県や国よりも高いです。

女性は平成27年から令和1年は80歳以上が最も高くなっています。平成28年から令和2年は40歳代、60歳代、80歳以上の自殺者割合が同率で最も高く、県や国よりも高いです。



(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020)」)



(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2021)」)

(5) 20歳以上の自殺者のうち有職者の職業の内訳

平成27年から令和1年と平成28年から令和2年を比較すると、被雇用者・勤め人の割合は増え、8割を超えています。

職業	自殺者数		割合		全国割合	
	H27~R1	H28~R2	H27~R1	H28~R2	H27~R1	H28~R2
自営業・家族従業者	9	8	22.5%	19.0%	19.0%	18.2%
被雇用者・勤め人	31	34	77.5%	81.0%	81.0%	81.8%
合計	40	42	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020,2021)」)

(6) 60歳以上の自殺者の同居人の有無

平成27年から令和1年と平成28年から令和2年の同居人ありを比較すると、やや減少して67.6%となっています。これは全国よりも高い割合です。

	同居人の有無 (割合)				全国 (割合)				
	あり		なし		あり		なし		
	H27~R1	H28~R2	H27~R1	H28~R2	H27~R1	H28~R2	H27~R1	H28~R2	
60歳以上 (合計)	71.4	67.6	28.6	32.4	67.1	66.1	32.9	34.0	
内訳	60歳代	22.8	23.5	8.6	11.8	24.9	23.9	13.7	13.6
	70歳代	25.7	23.5	14.3	11.8	24.0	23.9	11.1	11.6
	80歳以上	22.9	20.6	5.7	8.8	18.2	18.3	8.1	8.8

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020,2021)」)

(7) 自殺未遂の有無

平成28年から令和2年は、自殺者93人の内、自殺未遂ありは15人です。

未遂歴	H27~H31 (R1)	H28~R12
あり	14	15
なし	61	62
不詳	11	16

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2020,2021)」)

3 射水市の課題

自殺総合対策推進センターの分析によると、平成28年から令和2年までの5年間に於いて自殺者数の多い上位5区分が地域の主な自殺の特徴として抽出されました。本市では、これら上位5区分を市として支援が優先されるべき自殺リスクが高い集団等とし、重点的に支援を進めます。

(1) 自殺リスクが高い集団 (H28～R2)

上位5区分		自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**	H27～31(R1)	H26～30	H25～29
1位	男性40～59歳 有職同居	11	11.8%	21.2	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺	1位	2位	1位
2位	男性20～39歳 有職同居	9	9.7%	25.4	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺	4位	5位	5位
3位	女性60歳以上 無職同居	9	9.7%	13.9	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺	2位	1位	3位
4位	男性60歳以上 無職同居	8	8.6%	21.1	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺	5位	3位	2位
5位	男性40～59歳 無職同居	7	7.5%	239.4	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺	3位	4位	4位

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2021)」)

順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の母数(人口)は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考にした。

自殺総合対策推進センターから示された地域自殺実態プロファイル(2021)によると、射水市における自殺リスクが高い集団の上位3区分の性別・年代等の特性と、「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に、「勤務・経営」、「子ども・若者」、「高齢者」、「生活困窮者」が重点課題としてあげられました。